

松崎の景観を考える「松崎景観憲章」づくりワークショップ



松崎街道の町並み

10月28日、旅籠油屋において、「松崎景観憲章」づくりワークショップが開催されました。松崎地区のまちづくりの問題を解決していくために、「景観」というテーマを意識しながら取り組んでいくことで、地域の持つ歴史や個性、また、人々のさまざまな活動をひとつにして、活気があり、安心できるまちづくりを進めていこうという話し合いが行われました。

松崎地区は、薩摩街道の宿場町として、江戸時代よりおよそ350年の歴史を持つ集落です。明治以降、宿駅制度が廃止され、西鉄大牟田線（現在の西鉄天神大牟田線）の開通などにより、交通の要衝としての役割は終えるものの、現在でも、旅籠油屋をはじめ一松屋、鶴小屋などの旅籠建築、構口などの歴史的建造物が残っています。

しかし、地区の高齢化の進行とともに空き家や空き地が増え、江戸時代以降の歴史的な雰囲気を感じさせるまちの魅力は徐々に減退しているのも事実です。このような中、台風で破損した旅籠油屋の保存運動に向け、平成4年に「松崎地区町並み保存会」が結成されるなど、豊かな歴史的資源を持つ集落の遺産を有効に活用し、景観を保全するための取り組みが住民主体となって取り組まれています。



▲旅籠油屋

「松崎街道百年ばなし」語り部会

「松崎景観憲章」づくりワークショップに先立ち、「松崎街道百年ばなし」語り部会が行われました。市内在住の童話作家、田熊正子さんの書き下ろし作「松崎街道百年ばなし」の「鶴が来た村」などを福永厚子さん（東町）が感情豊かに朗読し、表の灯明と相まって幻想的な語り部会となりました。



▲柵形の通りを照らす灯明



▲語り部会

第18回野田宇太郎生誕祭

この日、松崎出身で「文学散歩」や明治村の建設など日本の歴史的風土の保存活動を実践した野田宇太郎の生誕祭も開催されました。

詩碑に野田宇太郎の愛したコヒーが供えられた後、全国から寄せられた1706篇の詩の中から、今年設けられた「水鳥賞」を受賞した、榑崎弘道さん（福岡市）の「夏の思い出」を本人が朗読し、野田宇太郎の遺徳を偲びました。

入賞作品（一席以上）

《特別賞「水鳥賞」》

夏の思い出 榑崎弘道さん（福岡市立高宮中3年）

《小学生の部》

一席 かの命 古川剛士さん（小郡市立小郡小4年）

《中学生の部》

一席 バスの中 堺 祥一（東明館中2年）

《一般の部》

一席 体温 内田茉莉さん（佐賀市）



▲「水鳥賞」受賞作を朗読する榑崎さん